

宮代町郷土資料館だより



第 34 号

特別展

「宮代町と岩槻城」



展示会場の様子

宮代町郷土資料館では 11 月から特別展宮代町と岩槻城が開催されています。この展示は一昨年度に宮代町字金原の関根孝吉氏宅から発見された岩槻城の絵図を住民の皆様方に公開することを目的として企画しました。この絵図は岩槻城と城下町を描いたもので、江戸時代中期の元禄期から宝永期（約 300 年前）のものとして推定されます。江戸時代前期や後期の岩槻城と城下町を描いた絵図はありましたが、江戸時代中期のものは初めての発見です。それでは、な

ぜ、宮代町に岩槻城の絵図が残されていたのでしょうか。それは、江戸時代中期に百間村金谷原組（現在の宮代町字金原を中心とした村）が岩槻藩主小笠原氏の支配下であったためと推定されるからです。これらのことから、岩槻藩主小笠原氏が百間村金谷原組の有力者であった関根氏の先祖に何らかの理由で下されたものと推定しています。

このように百間村金谷原組は岩槻藩領になったことがありましたが、宮代町内にはこ

の他、百間村西原組（宮代町字西原を中心とした村）や須賀村の一部、西条原村も江戸時代の一時期岩槻藩領になったことがありました。今回の展示では江戸時代前期から中期にかけての宮代町内で発見された古文書から岩槻藩の支配が確認できるものも展示しています。

江戸時代前期から中期にかけて、宮代町は岩槻城と密接な関係がありましたが、戦国時代はどうであったのでしょうか。岩付城主の北条氏政・氏房父子の家来であった鈴木雅楽助（うたのすけ）業俊が百間郷の領主を勤めていることや、字東に残る名刹西光院にも後北条氏の前の岩付城主であった太田資正（太田道灌の子孫）や北条康成（玉縄北条氏で後の氏繁）、北条氏房からの書状が残されています。これらのことから、宮代と岩槻は戦国時代から重要な関係がありました。

前述した鈴木雅楽助の居館跡付近（宮代町字東の中寺地区）や徳川家康の家臣の服部権太夫政季・政信父子の陣屋があった百間陣屋（百間西原陣屋）では発掘調査が実施され、戦国時代から江戸時代初期の遺構や遺物が発掘されており、これら遺物についても展示しています。ちなみに服部政季は岩槻城主であった高力清長の娘婿でもあります。

この他には、天正18年（1590）に後北条氏から鷲宮神社（鷲宮町）に出された朱印状の複製や岩槻城本丸や三の丸、樹木屋敷、竹束曲輪などで発掘された陶磁器、刀の鏝などの金属器、古銭、岩槻城の発掘調査時の写真、江戸時代前期阿部氏時代の竹束曲輪が古本丸と記載がされる絵図の複製などを展示しています。是非この機会に、戦国時代から続く宮代と岩槻との関係を考えてみてはいかがでしょうか。



岩槻城絵図（関根孝吉氏所蔵）

古墳時代後期の住居跡を発見～道仏遺跡発掘調査～

現在、発掘調査が行われている道仏北遺跡の南側400メートルに位置する道仏土地区画整理事務所敷地内で9月10日から26日まで発掘調査が行われました。この遺跡は道仏遺跡と呼ばれる遺跡で、平成9年度にも道仏遺跡土地区画整理事務所建設に伴い発掘調査が実施されています。

今回の発掘調査では、古墳時代後期（約1,400年前）の住居跡が3軒発掘されました。第1号住居跡は南側にカマドがある住居跡で、底面が水平に切り取られた大型の壺が出土しました。第1号住居跡と向かい合うように配置される第2号住居跡は北側にカマドが構築されており、僅かに第1号住居跡のカマドと重複します。竪穴住居の壁際には周溝と呼ばれる溝が発掘されました。これは壁の崩落を防ぐために板材を並べた跡だと推定されます。この住居跡からは多量の土師器（はじき）と呼ばれる古墳時代の土器が出土しています。中には復元できる個体もありました。第3号住居跡は一部を発掘したに止まりますので詳細は不明ですが床面には張床が施されていました。これら、住居跡の他、須恵器と呼ばれる灰色で硬質の土器も出土しています。これら須恵器は地元で生産されていたものではなく、関西や東海地方などで生産されたものと推定されます。

今回の道仏遺跡の発掘調査では縄文時代の遺物はほとんど出土しませんでした。古墳時代の遺物が多数出土しました。平成18年度から19年度、そして現在、発掘調査が進められている道仏北遺跡では縄文時代の遺物が多数出土しています。僅かに立地が違っただけでこのように遺跡の内容が異なることは非常に興味深いといえます。



第1号住居跡カマド付近



第1号住居跡カマドの覆土



第2号住居跡（下のほうに周溝・上の方がカマド）



第1号住居跡出土土師器（古墳時代の土器）

道仏北遺跡発掘調査中

道仏土地区画整理事業に伴う道仏北遺跡の発掘調査が行われています。今回の調査地点は、平成18年度から19年度にかけて行われ、縄文時代早期～前期の住居跡等が発掘された場所から北西へ100mほどの所にあります。

遺跡は、標高約8mの低い台地上にあり、水田面との比高約1mを測ります。古利根川の右岸に位置し、その氾濫により堆積した硬い粘土が台地を覆っており、その影響によりその下の土も硬く粘性の強いものとなっています。

今回の調査は面積4,000㎡程で、現在遺構確認のために土の除去作業が行われており、すでに縄文時代前期2軒の住居跡や10数基の土坑、3基の炉穴が確認されています。また、縄文時代早期から後期(7000年前～3500年前)にかけての土器や、やじり、石斧などの石器も出土しています。また、13,000年程前にさかのぼると考えられる槍の一部も出土しました。

今後引き続き調査が行われますが、さらに多くの遺構や遺物が発掘され、道仏地区の太古の歴史の一端が明らかにされるものと思われまます。



縄文時代前期約6000年前の住居跡(一部)



縄文時代中期約4500年の土器や石器の出土状況

資料館日誌抄

- 7月19日 企画展「宮代紀行～西原地区」(10月26日まで)
- 8月3日 移築民家とアタラシイゲキ5
- 8月5日 土器づくり教室(土器焼きは9月7日)
- 8月6日～28日 夏休み体験学習教室「郷土資料館へ行こう」
- 8月6日～8日、27日～29日 教員5年次研修
- 8月12日～29日 博物館学芸員実習
- 9月3日 道仏北遺跡試掘調査(9月19日まで)
- 9月10日 中遺跡試掘調査
- 9月10日 道仏遺跡試掘調査(9月12日まで)
- 9月13日 十五夜 SPレコードの夕べ
- 9月16日 金原稻荷神社遺跡試掘調査
- 9月17日 道仏遺跡発掘調査(9月26日まで)
- 9月21日 高野台スポ少単位団火起し体験(15名)
- 9月24日 道仏北遺跡発掘調査(現在まで)
- 10月17日 百間小学校総合学習 笠原沼(87名)
- 10月18日 かやぶき民家で聞く昔話
- 10月21日 みどり森利用者見学(38名)
- 10月26日 学園台あるけあるけ 職員派遣(50名)
- 11月1日 特別展「宮代町と岩槻城」(12月27日まで)

資料館寄贈者名簿

- | | |
|--------|----|
| 成田総一氏 | 民具 |
| 斎藤良吉氏 | 民具 |
| 島村繁夫氏 | 資料 |
| 並木朝太郎氏 | 資料 |
| 渡辺 栄氏 | 民具 |

宮代町郷土資料館だより えんがわ 34号

発行日 平成20年11月1日

発行 宮代町郷土資料館

郵便番号 345-0817

住所 埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地

電話番号 0480-34-8882

H P <http://www.town.miyashiro.saitama.jp>